

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年4月より、グループホームの位置づけが地域密着型サービスに変更になったため、新たに職員が話し合い、理念をつくりあげている。	事業所の理念とは別に、ホームの独自の理念をつくりあげている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を把握しており、日々の業務においても、常に意識している。	定期的に会議を行っているので、その際に理念の実践について取組まれているか、確認したい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、重要事項説明書に記載したり、各ユニットの玄関口に掲示している。地域の方には「運営推進会議」や季刊誌などを利用し、理解していただけるよう、取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの行事への参加の呼びかけや、公民館や小学校への行事への参加をしており、常に交流を図っている。声かけや、立ち寄っていただいたり、日常のお付き合いもしている。	散歩の時、近所の方に挨拶をしたり、会話をしながら気軽に声をかけていただいたり、花壇に植える花をいただいたりしている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	空き缶拾いや、地域のお祭り、小学校への運動会への参加、公民館の行事への参加など、交流に努めている。	利用者の状況と事業所の体制が可能な限り、交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「運営推進会議」においても話し合い、介護教室などを検討している。		地域の方が気軽に立ち寄り、介護保険に関する情報提供や、相談なども地域の窓口となっていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善点があれば、可能な限り改善できるところは、職員に伝え改善に取り組んでいる。		自己評価及び外部評価を実施することで、新たに見直しをし、改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「運営推進会議」において様々な意見を頂戴し、サービスの向上に活かしている。		地域との交流の機会を設けていただいたり、情報提供をしていただいたりしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今のところ市町村担当者とは運営推進会議以外、行き来する機会はない。		ホームの行事へのお誘いはしているものの、休日などが多く出席が難しい。今後、相談などがあれば施設側から積極的に出向き連携を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などにより情報収集をおこない、学ぶ機会をもっている。必要と判断する方がいれば話し合う機会を設ける。		月々にかかる費用などから活用できなかった例もあるが、ご家族からの相談により制度を活用した例もある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての外部研修に参加し理解している。身体拘束を含めた委員会を設置しており、委員を中心に注意を払い、防止に努めている。		職員に対しても、なるべくストレスがかからないよう、食事会などの機会を作るなどの配慮をしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては、相談の段階から管理者が責任を持って説明し、利用者、ご家族の疑問などにも即答できるようにしている。	ご家族が十分な理解ができるように、契約書などは、例をあげながらご説明させていただいている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接職員へ意見があった時には、申し送りなどを通して職員へおくり、ご家族への面会や介護相談員なども受入れる機会を設けている。	本人の意思を尊重し、なるべく外部の方と接触する機会を設けていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ハイブリッジ通信」をお送りしている、定期的にケアプランを作成し、状態を報告する他、金銭管理についても、お預かりしている金銭については、出納帳の写しを配布している。	報告については、御家族の意見、要望があれば、その都度対応していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に苦情受付BOXを設置している他、受付担当者を玄関に掲示、重要事項説明書にもホーム以外の外部への苦情受付機関を掲載している。	ご家族の面会時などにも、職員が積極的に話しかけをおこない、気軽に相談できるような関係作りを取り組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者とは毎月必ず全体ミーティングを開催している他、定期的に食事会もおこない、意見や提案を聞く機会を設けている。	その他にも職員個人との面談の機会をつくり意見の聴衆をしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基本的に利用者の生活に合わせた勤務体制を確保しており、勤務体制の変更が必要になった時には話し合いをし、調整している。	現在は早番を設けていないが、必要に応じて、早番の体制をとることがある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職などは、利用者の精神的ダメージを最小限にするためにも、少人数にするなどの配慮をしている。		職員の異動後もなるべくホームに寄ってもらうなどの配慮をしている。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修及び外部研修をおこなっている。		大きく新任従事者研修、中堅者研修、管理者研修の3つの研修体系をとり、段階に応じた職員に対し、研修をおこなっている。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの行事へのお誘い、協議会を通じての勉強会などをおこなっている。		運営推進会議においても、「知見を有する者」として参加していただいている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会などの食事会をしたりしている他、運営者も職員個人と話し合う機会を作っている。		職員の勤務年数に応じて表彰式などもおこなっている。また、職員同士が話しやすい職場の雰囲気作りをしている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格に応じてスキルアップを目的とした教育支援制度を設けている。		介護職員基礎研修の実施や、介護福祉士、介護支援専門員の受験対策講座も職員に対しては無料で受講できるようにしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	緊急時以外は相談の段階から何度か面会をさせていただき、本人とゆっくりと話す機会を設けている。	入所に至るまでに余裕がある方に対しては、利用されているサービスの状態も見学させていただくこともある。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の段階で、困っていることについて聞き取りをして、入所が決定した時に介護に対する意向を聞き取りしている。	入所前の面談時に施設の機能や体制を説明し、施設に対して求めていることに対しての聞き取りをしている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で、ホーム以外のサービスを利用するほうが良いと思われる場合は他のサービスを勧めることもある。	ホームに空が無く、相談を受けた段階でその方がホームの利用が必要と判断すれば、近隣のホームに連絡し、対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所に可能であればホームに見学に来て頂くなどしている。	ショートステイの利用から入所をするケースもある。あるいは、日中ホームで過ごして夕方に帰宅したりして少しずつ慣れていただいた事もある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの行事などは本人たちに聞きながら学ぶような形でおこなっており、出来ないことは職員が対応している。	昔、やっていた踊りや小唄を教えてもらったり昔の知恵を聞いて職員も一緒に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランに御家族の協力も仰ぐこともしている。大きな行事などはご家族にも参加していただいている。		数名ではあるが、ご家族にもボランティアをしていただいている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、ご家族の関係について理解しており、可能な限り面会や行事への参加を促している。		ご家族にも理解をしていただき、必要に応じて、本人が直接、ご家族への電話もしている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	よほどの事が無ければ、面会をお断りすることもなく、友人との外出などもおこなっている。本人が行きたい場所なども可能な限り連れて行くこともしている。		可能な限り本人の要望を聞き社会との係わりを支援していきたい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係には常に把握に努め、どなたも孤立しないよう、複数で作業をするなどし、対応している。		利用者同士の相性は把握しているので、複数での作業には当事者同士が会わないようにし、どうしてもあってしまう場合には職員が必ず間に入るよう努めている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後の方に対しても行事へのお誘いや、面会などをおこなっている。		サービス利用後の利用者がホームに気軽に立ち寄っていただけるようにホームの状況などがわかる便りなどを送っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意向を尊重しサービスを提供している。訴えが困難な方に対しても、アセスメントし共に検討することでケアプランを作成している。	ホームに入所している以上、どうしても制限されることがあるので、今後も可能な限り、思いや意向を尊重できるようなケアをしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にケアマネージャーからの情報提供、又は看護サマリーのほか、本人、ご家族に対しても聞き取りを行い、これまでの経過を把握している。	聞き取りが可能な方であれば、ご家族以外のご近所の方や友人などからも積極的に聞き取りを行っていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録に毎日の生活の状況、バイタルのチェックなどを記入するほか、活動の記録も記録し総合的に把握できるよう努めている。	職員以外の職種からの視点を含め情報の収集に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族、本人の意見、要望を含めサービス担当者会議を開催し介護計画を立てている。	サービス担当者会議の参加者も、より多職種になるよう努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態が急激に変化した場合はその都度、担当者会議を開き、計画の変更をしている。	サービス担当者会議を開催する前に臨時にカンファレンスを行い対応している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、実践・結果については個別記録に記入しているが、気づきや、新たな情報などは正確な情報ではないこともあり、別にファイルを設け記入している。		実践については、事務所に一覧にし、張り出している。モニタリングについても職員が参加し、行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所隣の土地をお借りして園芸を行っている。その他、ケアマネージャーを配置しているので、御家族の要望により、介護保険の更新手続きなども代行している。		できるかぎり事業所の機能を生かした支援を心がけていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、教育機関等とは頻繁に関りを持ち協力していただいている。		必要に応じて他の機関などとも、積極的に交流し支援していきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、居宅療養管理指導を受けている。他のケアマネージャーや事業所とも話し合い、お互いの行事に参加するなどの支援はしている。		本人の意向や必要性に応じて可能な限り他のサービスの利用も検討したい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は特に地域包括支援センターとの協働はなされていない。		必要性に応じて、地域包括支援センターと協働していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>かかりつけ医が診療所など、夜間対応が困難な方の場合、事業所指定の医師にさせていただくこともある。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>今後も積極的に関わりを持ち、利用者が適切な治療が受けられるよう支援していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>利用者の病状が初期段階の時から相談し、指示を仰いだり、見て頂いたりしている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>退院時にホームで対応が可能であるかどうか、相談や情報交換もしている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>特に終末期においては状態の変化により、その都度ご家族と話し合い、確認をしていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>重度化及び終末期になった時のマニュアルを再度、関係者を含め検討し、事業所とかかりつけ医と連携し支援していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所者に対して、ご家族または担当のケアマネージャー等に情報提供を行っている。		環境の変化を最小限にするためにも、居室内の配置やお部屋の位置など、より詳しい情報の提供にも努めて生きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の立場に立った話しかけや対応をしている。職員は記録も含め個人情報、秘密保持について誓約書に同意をしている。		個人記録なども管理上、通常目の届かないところに保管している。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が思いや希望を表せるような関係を築くことができるような関り方針がけている。普段の生活においても自己決定ができるよう、選択をしてもらう場面を作ったり、本当に良いのか確認したりしている。		ホーム内で、共同生活をしている以上、どうしても利用者の希望に添えないことのあるが、できるかぎり、希望に添った支援をしていきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、起床時間や食事の提供時間など一律にせず支援している。		ホームの体制上、できるかぎりの勤務体制の確保をし支援しているが、薬の服薬の時間や入浴時間など、希望に添わないこともあるが、できる限りの努力をしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の昔ながらの付き合いがある理容店などに、付き添うなどの支援をしている。		経済上、本人の望む店にいけない方もいる。その代わりに身だしなみや化粧などのおしゃれができるよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食煮の準備、調理補助、配膳・下膳など職員と一緒にこなっている。		当然のことながら出来ない方もいるが、できる方には、下膳や食器洗い、方付け等も職員と一緒にやっている。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病気によって制限はでる方もいるものの、希望がある方に対しては一緒に買い物に行き購入している。		毎月お楽しみ献立の日を設け、利用者に好みのものを聞きメニューを決めている。また、希望により個別に職員と外食することもある。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現在、オムツの使用をする方はいなくなったが、排泄パターンを把握し、定時に誘導するようにしている。		尿取りパットやポータブルトイレなどを活用し、なるべく失禁を減らすようにしている。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせ、毎日入る方もいれば、週に2、3度の方もいる。		入浴が好きでない方に対しては、清拭するなどの対応になっている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣により休む時間が異なるので、個別に休息できるよう自室で休んでもらっている。		状態の観察を常に行い、疲れている時には声をかけをし休んでいただいている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を生かし、それぞれに合った役割をもってもらっている。		利用者の趣味や生活歴などを更に詳しく把握することで、力の発揮や気晴らしなどの支援をしていきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない方に対し、職員が代わりに購入をしていることがある。		金銭の管理が出来ない方に対しても、小額ではあるがお金を所持していただいている。買い物にも本人の物は職員が付き添いのもと、支払っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は体調が悪くない限り、自由に戸外に出かけているが、距離により希望に添えないこともある。		基本的に晴れた日は散歩や買い物などの外出を心がけている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望があまりにも遠距離な場合を除いて、家族と共にいく場合と、他の利用者と交えて出かける機会を作っている。		外出先が可能な場所であれば、職員の勤務体制を調整し個別に連れていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話などは自由に行ってもらい、手紙を購入することや、電話をかけるなどの支援をしている。		電話をかける頻度や時間帯など、相手に迷惑がかからない程度に支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に対しては、特別な理由がない限り断ることはしていない。来ていただいた時には椅子を用意したり、お茶を出す程度のもてなしはしている。		面会に来てくださった方に対して、職員も気持ちの良い挨拶をするように心がけている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束廃止にかかわるポスターを掲示するとともに、身体拘束検討委員会も設置している。		定期的に内部研修の機会をつくり、身体拘束についての検討及び勉強会をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>すべての職員は鍵をかけることの弊害を理解している。そのため、よほどの理由がない限り鍵をかけ、外出を拒むことはしていない。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		<p>日中は職員同士が確認しあい、所在や様子を把握し、何度も居室に訪室することがないように気をつけている。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>利用者ができること・できないことは職員が把握できている。できることを制限しないために、利用者が何を持っているかを把握し、できなくなったときにホームで管理している。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>内部・外部研修などで知識を学んではいるが、今後は学んできた知識を個別に反映し、事故防止に取り組みたい。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>医師や看護師を交え定期的に訓練をしていきたい。近隣のグループホーム合同で消防署主催の応急処置の研修の計画を立てている。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>災害想定範囲をより広げ、地域住民の連携を強化していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている		リスクについて説明させていただく時に、対応策も説明し、話し合っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている		活動日誌、個人記録、申し送りノート等を活用する他、当日出勤者に対しては速やかに口頭で申し送っている。 体調の変化については検温表などをもとに、体調変化の早期発見に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		利用者が服用している薬の目的や副作用、用法や用量を含め、薬剤師に指導を受けている。 利用者別に薬の目的や副作用、用法や用量の記入された用紙を個別記録とともに保管している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		排便簿にて排便の確認をし、排便が2日以上ない場合には申し送りをしている。体操や乳製品の摂取などの対応の他、ドクターに指示を受けることもある。 個別に一日の水分摂取量に対し、どの位の水分摂取ができていのか、また、どの位の排尿量があるのかを可能な限り把握していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている		毎食後、全員にはではないが、利用者の力に応じた支援、声かけや介助を行っている。 定期的な歯科受診や、最低でも週に一度は入れ歯の洗浄を行うようにしている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		カロリー、塩分の制限のある方が多いので、基本的に毎食のメニューは業者に委託し栄養のバランスのとれた食事を提供している。 食事の摂取量などは毎食記入し把握しているが、水分に関しては、おおよそでしか把握していない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防対策委員会を中心にマニュアルをつくり、情報提供するほか、厚生省や県及び市などからの情報も回覧するなどしている。		マニュアル以外にもインフルエンザやノロウイルス等、時期的に流行るものに対しては、医師からも情報を提供していただいている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所チェックリストを作成し調理用具の衛生管理と必要な分の食材を仕入れ賞味期限切れをなくしている。		調理用具の他にも手拭タオルの交換や、調理後の床清掃なども常に行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には常に花などの植物を飾り、玄関脇にベンチなども置くなどの工夫をしている。		施設の玄関や周辺など利用者と一緒に掃除や庭の手入れをすることで出入りの回数を増やし、常に人が自然に出入りすることで、閉鎖的なイメージを持たせないような工夫をしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの入り口に季節の花を飾る他、室内から外に洗濯物や野菜などが見えるようにしている。		ホーム自体の内装もできるだけ木目調扉や手すりなどを多く使用している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や和室以外にも廊下にソファや椅子を設置するなどし、居場所の確保をしている。		室外においてもベンチを置くなど、天気の良い日には外で作業をしながらくつろいでいる方もいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>入所前に事前に居室を見ていただいて、持ってくる物や持ってこれない物を判断していただいている。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		<p>エアコンの温度調節をタイマーを使うなどして調節している。朝夕など温度の変化に応じて温度を調節している。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		<p>今後も利用者のニーズに応じて安全な環境を提供できるように支援していきたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		<p>見当識などの対応でトイレまでの案内を掲示するようにする場合もある。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>一階からは玄関を通らずに直接洗濯を干したり込んだりできるように出入り口をつくり、活動できるようにした。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない おおむね掴んではいるが、利用者により深く関わることで、思いや願いなどの意向を知る事ができている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない 食事以外にもお茶の時間や散歩などゆったりと過ごす時間を毎日作っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 起床時間や入浴の時間などでどうしても制限させてしまっていることはあるが、おおむね満足していただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 利用者それぞれに合った生活をしていただくことで、生き生きとした表情や姿が見られている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 身体状況や遠方などの理由から困難な方がいる。可能な限り支援はしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 隣にクリニックがあるほか、毎週ドクターが往診に来る以外に、看護師も勤務している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない どうしても遠慮をしてしまう方もいるが、要望があれば、柔軟に支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ご家族とは面会の際に、お話をさせていただいている。遠方のご家族にも電話や手紙などで連絡をとっている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない 町内会長やドクター、ご近所の方や近所の知人などが訪ねて来てくれている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ホームの行事や地域の行事にお互いに参加しあうことで地元の方との交流が深まり、理解者、応援者は増えている。
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない 意欲のある職員が多く、職員同士のトラブルもきわめて少ない。そのため遅刻や欠勤などもほとんどない。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 利用者からの苦情もほとんどなく、現在は落ち着いた生活を送っていただいている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない グループホームということで、どうしても医療ニーズが低くホーム内での医療行為が困難なこと意外は、おおむね満足していただいている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型サービスという位置づけから、近隣住民はもとより、近隣の施設や公民館、町内の行事などを通じてホームとして関わっている。ホームに勤めている職員も理念を把握した上で地域との交流を図り、より良い関係を築いている。